

2016年度第1回 道連理事会報告

8月4日 第1回道連理事会が開催されました。残念なことに理事会は、理事4名、監事1名と欠席者が多かった。札幌医療生協の遠藤理事が議長に選出され、麻田会長から開会のご挨拶の後、山口専務から議決事項①2016年度役員報酬の件 ②大学生協連北海道事業連合との業務委託契約の件 ③大学生協連北海道ブロック理事長会議共催の件 ④次回理事会（10月12日・ホテルポールスター）及び次々回理事会運営（1月17日・役員学習会 日生協の和田専務・新年懇親会 ホテルポールスター）の件について提案され、議決されました。

川原事務局長から、審議事項①LPガス問題の取り組みについて ②労福協「政策・制度要求運動」について ③ガン予防・検診・推進活動について提案され、承認されました。中島専務から、ガンをめぐる状況認識や検診運動の重要性と組合員と会員生協が「参加し

やすい、参加したくなる」企画案の提示の重要性について発言がありました。

山口専務から報告事項①一般活動経過報告 ②2016年度第一四半期決算報告 ③福祉問題を総合的に考える委員会報告（池田町と登別市社会福祉協議会視察報告・コープさっぽろ取り組み報告・北海道労金「まる元」高齢者運動教室への支援について・ホームシェアハウス問題の取り組み報告）④2016年度消費者フォーラムの取り組み報告（11月24日開催・札幌エルプラザ）⑤労金・道連災害時協定の具体化、労金・コープさっぽろ事業提携推進状況及び今後の課題について ⑥道連60周年企画推進状況について ⑦北海道・行政関連報告 ⑧友好団体関連報告がありました。最後に白井（日生協北海道支所氏所長）から日生協北海道支所報告で理事会を終了しました。

～ろうきん・コープさっぽろ懇談会開かれる～

8月3日(水)、ホテルガーデンパレスに於いて、北海道生活協同組合連合会仲介のもと、ろうきんとコープさっぽろの事業提携推進懇談会が開催されましたので、ご報告致します。

懇談会には、労金より佐藤専務・高橋常務・山田経営企画室部長・加藤事業推進部副部長、コープさっぽろから中島専務・会田常務・米内管理部長、道連より山口専務・川原事務局長が参加し行われました。

懇談会では、冒頭道連・コープさっぽろ・ろうきん三専務から挨拶があり、続いてろうきん山田部長よりこの間の連携実績について報告がありました。内容としてコープさっぽろ創業50周年キャンペーン（ローン締結者に対してちよこっとカードプレゼント企画）では、新規組合員339人加入、新規ローン契約2,569件新規金額15,775百万円の契約があった事が報告されました。

また、社会的貢献事業として「まる元」運動の認知度検査機の贈呈がろうきんよりあった事、コープさっぽろのWEB調査では、ろうきんの認知度や住宅ローン・自動車ローンなどの利用実態・生協組合員の金融機関への意識など今後のろうきんの政策作りに役立つ情報が得られたことが報告されました。

さらに、今後の課題検討ではろうきんより、えほんがトドックの取り組みで絵本十一冊プレゼント企画やろうきん友の会メンバーのまる元運動との連携活動などが検討されていることが報告されました。

懇談参加者からは、ろうきんとコープさっぽろの提携が着実に前進してきているとの発言が相次ぎ、引続き事業分野や社会的貢献事業での提携を強めていくことが確認され、懇談会は和やかなうちに終了しました。

以上ご報告いたします。

北海道医療生協 戦争の記憶を語り継ぐつどい～戦後71年の記憶

今年、1941年12月8日に日本軍の真珠湾攻撃で始まった太平洋戦争が1945年8月15日に終戦をむかえてから71年の年です。

北海道医療生協では、毎年8月に戦争体験者からお話を聞いて平和の尊さを学ぶ「戦争の記憶を語り継ぐつどい」を開催していますが、今年も8月9日(火)に7名の語りべから朗読や体験談を聞くことができました。

午前の部では、日本の民話を語り伝える会の東さん(ぼうさまになったからす)、亀川さん(ちいちゃんのかげおくり)、藤井さん(かあさんのうた)、植松さん(詩の朗読)の4名が語りべとして話してくださいました。午後からは戦争のために殺された動物園のゾウと飼育員の話佐藤さんが朗読(ぞうとにんげん)し、安住さんは「私の若き頃」と題して何もわからない中で一生懸命に生きてきたことを話してくれました。

そして坂野さんは、学徒援農として帯広をはじめ全道各地や千葉県等に行かされモッコで土砂運搬作業をしたこと、B29の来襲や東京大空襲と無差別攻撃にあ

い生きて心地がしなかったことなど辛い体験を話して下さいました。又ご自身で作成した太平洋戦争や1945年7月14～15日の北海道大空襲での犠牲者についての資料により悲惨な実態を知ることができました。

あらためて体験者の話などを聞いて思うのは、戦争は軍人だけでなく高齢者や女性、子どもまでも殺されて日常生活が成り立たなくなってしまう非情な状況である、ということです。過去の過ちを決して忘れることなく、平和憲法に則り二度と武力による闘いが起きないようにしなければならぬと強く心に念じた1日でした。



生活クラブ 広島平和行動、参加者の感想より『広島』

白石支部 一瀬 哲平(中3)

最終日の広島平和記念公園でのフィールドワーク。「原爆供養塔」は原爆投下により亡くなった、引き取り手のない遺骨を供養しています。

8月6日にはさまざまな宗教・宗派の慰霊祭が行われ、それぞれが時間をずらして行われていることを知りました。

そして、僕が一番印象に残ったのは「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」の事です。最初は「韓国人の慰霊碑？」と、疑問に思いました。なぜ韓国の方が広島で原爆被害にあったのかというと、戦争が始まると日本の男性は兵隊になって労働力が足りなくなり国家総動員法により朝鮮の人たちを日本国内に連れてきて働かせたからだそうです。

広島原爆投下に伴う被爆者は5万人そのうち3万人が亡くなったそうです。もともと碑があった場所が

平和公園内でなかったことから「民族差別」という声があがりいまの場所に建てられたそうです。自分は連れてこられた朝鮮の方々も広島で被爆を受けるこ



とになりお亡くなりになった方も出たことを全く知らなかったし、学校でも教わらないことだったので、多くの皆さんに知って欲しいと思いました。

平和乃観音像は戦後すぐには慰霊碑を建てることは認められなかったため、観音像として建てられたそうです。ガイドの方に短い時間ではありましたが、一つ一つ丁寧に説明していただき、自分の全く知らなかったことや、被爆後の広島姿を知ることができました。今回の平和行動では、加害国・日本、被害国・日本の両方の立場の歴史を深く学ぶことができ、自分のこれから先の人生の中でも、素晴らしい体験ができたと思います。これからはこの経験を活かし自分たちの世代を含め、詳しい話を伝えていければと思います。

貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。